

15

REEL No. A-0214

0147

アジア歴史資料センター

不足 27. 3. /

ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助  
長シコレト兩國國交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス  
支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央  
政權ノ傘下ニ收容セララルル如ク施策ス

(三) 本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル  
爲國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ  
友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四) 第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ  
優位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五) 國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指  
導ス

對外啓發ニツキテモ亦同シ

別紙 甲

日支媾和交渉條件細目

- 一、支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二、支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三、北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四、北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルコト
- 五、内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六、支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策遂行ニ協力スルコト

202

0199

IMT 357

七、中支占據地帯ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト

八、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交貿、航空、交通、通信等ニ關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト

九、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附記。

(一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト

(二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス

支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障

247

203

IMT 357

9

9

S20

的條項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展、  
國民的要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

249

248

IMT 357

204

0200

REEL No. A-0214

0150

アジア歴史資料センター

別紙 乙

(一) 別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

一、第三項ノ非武装地帯

二、第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊  
權益及之カ爲存置ヲ必要トスル機關

三、第七項ノ非武装地帯

四、附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル  
權益

(二) 媾和ニ關連シテ廢棄スヘキ約定

一、梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原秦德純協定、上海  
停戰協定

二、保障事項ノ解消ト全時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益(例  
ヘハ治外法權、租界、駐兵權等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考慮ス

820



軍令部總長宮殿下御口述覺

三三二〇田見吉良吉良  
お早  
み

海軍

ノ第三郎

本方針ニ對シマシテハ異存アリマセヌ、又參謀總長ノ述ベラレマシ  
タ所見ノ主旨ニハ同感デアリマス、尙本方針ニ基キ實行スベキ條項

本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲  
國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好  
關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

ハ支那現中央政府ガ和ヲ求メ來ラザル場合ハ勿論和ヲ求ムル場合ニ  
於キマシテモ今後ノ國際情勢ガ益々機微ナラムトシマスルニ鑑ミ特  
ニ重要デアルト認メマスカラ各部協力一致シテ極力之ガ實現ニ邁進

スルノ要アルモノト認メテ居リマス

IMT 357 208

257

IMT 357

256

207

0202

御前會議ニ於テ大本營陸軍部トシテノ御報告

本日ノ議題タル支那事變處理根本方針ニ關シ大本營陸軍部ト致シマシテ内閣側ト意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ見解ニ就キ御報告申上ゲマス

日支兩國ハ先ヅ國防上大局ノ見地ニ基キマスルモ相互ニ衷心ヨリ道義的ノ親善提携ヲ必要トスル間柄デゴザリマシテ更ニ我國是ニ基ク兩國國交ノ大道ニ照シマスルトキハ益々其必要ヲ感ズルノデゴザリマス

此見地ニ基キ内閣側ト種々意見ノ交換ヲ重ネマシタ結果只今外務大臣ヨリ御報告ニ及ビマシタ方針案ニ關シ海軍部トシテハ次ノ趣旨見解ニ基キ意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ次第デゴザリマス  
今次支那事變ノ解決ヲ契機トスル日支兩國ノ國交恢復ニ方リマシ

テハ從來ノ國交ニ一大轉換ヲ劃シマシテ東亞ニ於ケル兩國ガ過去一切ノ相剋ノ因果ヲ清算シ道義的基礎ノ上ニ衷心ヨリスル善隣友好互助共榮ノ實ヲ擧ゲ協同シテ東洋ノ平和ヲ確保シ其道義文化ノ擁護興隆ヲ圖リ延イテ世界ノ平和ニ貢獻スルコトヲ主眼トスベキモノデアリマシテ本件ハ今次事變出兵目的ノ骨子ヲ成スモノト信ゼラレマス例ヘバ「日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乘的基礎ノ上ニ再建シ」ト述ベラレ又「文化提携」等ノ語句ヲ用ヒラレマシタノハ此觀念ヲ意味スルモノト諒解致シテ居リマス

次ニ媾和ノ條件ハ勝敗及犠牲ノ程度等ニ依リ目ラ差異アルハ避ケ難イ所ト存ゼラレマスガ前述ノ主眼ニ基キマスレバ此際ノ解決ニ當リマシテモ戰勝國ガ戰敗國ニ對シ過酷ナル條件ヲ強要スルガ如

一〇月七書記長打草

お

0203

IMT 357

210

257

TMT 357

209

キ心境ハ毫末モ之ヲ有スベキニアラズトスル根本ノ觀念ニ立脚致シマシテ公明正大ニシテ支那民衆ヲシテ努メテ帝國ノ媾和條件ニ怨恨ヲ懷カシメズ且公平ナル第三國ニ對シテモ我真意ノ存スル所ヲ認識諒解セシムル爲努メテ寛大ナルヲ要スベキモノト思惟致シテ居リマス

唯々支那側爲政者ノ媾和ノ内意及其不信行爲ニ満スル從來ノ經驗等ニモ照シ駐兵權、非武装地帯ノ設定等必要ナル保障ハ確實ニ之ヲ把握致シマスルト共ニ約諾ノ實行ニ伴ヒ之ヲ解除スルコトヲ約シマシテ爾他ノ媾和條件ト確然タル區別ヲ設ケ以テ將來ニ於ケル事端ノ再發ヲ防遏シ今次事變ノ尊キ犠牲ヲ意義アラシメマスルト共ニ爾他ノ媾和條件ヲ努メテ寛大ナラシムルコトヲ容易ニシ且支那側ニ對シ將來ニ希望ト光明トヲ與ヘ併セテ今後成ルヘク速ニ而

モ誠意アル約諾ノ實行ヲ促進スル等ノ目的ヲ併セ達成スルヲ得策トスル次第ト存ジマス本案ハ基礎條件細目ノ内容ガ適正穩健ニ規定サレマスルナラバ正ニ此趣旨ニ合スルモノト見解致シテ居リマス

IMT 357

212

261

260

IMT 357

211

0204



之ト併行シ事變解決後ノ國際情勢ノ變轉等ニ備フル爲國家總力就  
中國防カノ充實整備ヲ必須ノ措置ト致シマス即チ今次事變解決ノ  
效果ヲ眞ニ根本的ノモノトシテ得ルヤ否ヤハ寧ロ我方今後ニ於  
ケル此等ノ措置如何ニ懸ルモノカ大デアルト存ジマス事變ガ持久  
ノ態勢ニ移行致シマスル場合ニハ右ノ充實整備ハ一層促進セラレ  
ベキモノデアリマシテ本案ハ此等ノ點ニ關シ十分ノ覺悟ヲ表示セ  
ラレアルモノト幕僚部ハ見解致シテ居リマス

尙大本營陸軍幕僚部ト致シマシテハ事變發生當時ヨリ長期ニ陷ル  
場合ヲ顧慮シ適時持久ノ態勢ニ轉移シ得ル爲諸般ノ準備ヲ整ヘツ  
ツアリマスルガ前述我國防上ノ大局的見地、我國是ニ基ク日支國  
交ノ大道等以外ニ於テモ統帥ノ立場トシテ支那ニ對スル兵力行使

ノ持久戰爭の特質、列強ノ對支援助並帝國ノ對第三國軍備及建設  
途中ニ在ル滿洲國ノ現狀等ニ稽ヘ又統帥部方面ヨリ見タル國際諸  
情勢、國內及國家總力ノ實情等ニ鑑ミマスレバ今次事變ハ其出兵  
目的ノ本旨達成ニ遺憾ナキ限り成ルベク速ニ之ヲ終結ニ導クベキ  
モノト存ゼラルルノデゴザリマス加之最近ノ如キ氣運ニ投ジ若我  
出兵目的ニ適スル媾和解決ノ成立ヲ見ルコトヲ得マスレバ當ニ帝  
國ノ爲ノミナラス日滿支三國ノ國力就中國防カノ過度ノ減耗ヲ防  
ギ防共ヲ容易ニシ帝國ガ將來ニ處スベキ此等ノ充實整備ノ餘力ヲ  
存セシメ東洋ノ平和ノ爲誠ニ喜ブベキ所デゴザリマス從テ帝國ト  
シテハ目下ノ時期ニ於テハ尙先ツ此目的ノ爲政戰兩略上ニ於ケル  
諸般ノ措置ヲ統合シテ善處スベキモノト考ヘ本案ヲ以テ此趣旨ニ

IMT 357

214

263

IMT 357

213

0205

820

合  
ス  
ル  
モ  
ノ  
ト  
解  
シ  
同  
意  
致  
シ  
マ  
シ  
タ  
次  
第  
デ  
ゴ  
ザ  
リ  
マ  
ス

265

264

IMT 357

215

0206

REEL No. A-0214

0 : 5 5

アジア歴史資料センター

極秘

820

御前會議ニ於テ大本營陸軍部トシテノ御報告

本日ノ議題タル支那事變處理根本方針ニ關シ大本營陸軍部ト致シマシテ内閣側ト意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ見解ニ就キ御報告申上ケマス

日支兩國ハ先ツ國防上大局ノ見地ニ基キマスルモ相互ニ衷心ヨリ道義的ノ親善提携ヲ必要トスル間柄テコサリマシテ更ニ我國是ニ基ク兩國國交ノ大道ニ照シマスルトキハ益々其必要ヲ感スルノテコサリマス

此見地ニ基キ内閣側ト種々意見ノ交換ヲ重ネマシタ結果只今外務大臣ヨリ御報告ニ及ヒマシタ方針案ニ關シ幕僚部トシテハ次ノ趣旨見解ニ基キ意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ次第テコサリマス

1

0207

216

IMT 357

820

2

今次支那事變ノ解決ヲ契機トスル日支兩國ノ國交恢復ニ方リマシテハ從來ノ國交ニ一大轉換ヲ劃シマシテ東亞ニ於ケル兩國力過去一切ノ相剋ノ因果ヲ清算シ道義的基礎ノ上ニ衷心ヨリスル善隣友好互助共榮ノ實ヲ擧ケ協同シテ東洋ノ平和ヲ確保シ其道義文化ノ擁護興隆ヲ圖リ延イテ世界ノ平和ニ貢獻スルコトヲ主眼トスヘキモノテアリマシテ本件ハ今次事變出兵目的ノ骨子ヲ成スモノト信セラレマス例ヘハ「日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大衆的基礎ノ上ニ再建シ」ト述ヘラレ又「文化提携」等ノ語句ヲ用ヒラレマシタノハ此觀念ヲ意味スルモノト諒解致シテ居リマス  
次ニ媾和ノ條件ハ勝敗及犠牲ノ程度等ニ依リ目ヲ歪異アルハ避ケ難イ所ト存セラレマスカ前述ノ主眼ニ基キマスレハ此際ノ解決ニ當リマ

0208

217

218

IMT 357

シテモ戰勝國カ戰敗國ニ對シ過酷ナル條件ヲ強要スルカ如キ心境ハ  
 毫末モ之ヲ有スヘキニアラストスル根本ノ觀念ニ立脚致シマシテ公  
 明正大ニシテ支那民衆ヲシテ努メテ帝國ノ媾和條件ニ怨恨ヲ懷カシ  
 メス且公平ナル第三國ニ對シテモ我真意ノ存スル所ヲ認識諒解セシ  
 ムル爲努メテ寛大ナルヲ安スヘキモノト思惟致シテ居リマス  
 唯々支那側爲政者ノ媾和ノ内意及其不信行爲ニ關スル從來ノ經驗等  
 ニモ照シ駐兵權、非武装地帯ノ設定等必要ナル保障ハ確實ニ之ヲ把  
 握致シマスルト共ニ約諾ノ實行ニ伴ヒ之ヲ解除スルコトヲ約シマシ  
 テ爾他ノ媾和條件ト確然タル區別ヲ設ケ以テ將來ニ於ケル事端ノ再  
 發ヲ防遏シ今次事變ノ尊キ犠牲ヲ意義アラシメマスルト共ニ爾他ノ  
 媾和條件ヲ努メテ寛大ナラシムルコトヲ容易ニシ且支那側ニ對シ將

來ニ希望ト光明トヲ與ヘ併セテ今後成ルヘク速ニ而モ誠意アル約諾  
 ノ實行ヲ促進スル等ノ目的ヲ併セ達成スルヲ得策トスル次第ト存シ  
 マス本案ハ基礎條件細目ノ内容カ適正穩健ニ規定サレマスナラハ正  
 ニ此趣旨ニ合スルモノト見解致シテ居リマス  
 之ト併行シ事變解決後ノ國際情勢ノ變轉等ニ備フル爲國家總力就中  
 國防力ノ充實整備ヲ必須ノ措置ト致シマス即チ今次事變解決ノ效果  
 ヲ眞ニ根本的ノモノタラシメ得ルヤ否ヤハ寧ロ我方今後ニ於ケル此  
 等ノ措置如何ニ懸ルモノカ大テアルト存シマス事變力持久ノ態勢ニ  
 移行致シマスル場合ニハ石ノ充實整備ハ一層促進セラルヘキモノテ  
 アリマシテ本案ハ此等ノ點ニ關シ十分ノ覺悟ヲ表示セラレアルモノ  
 ト幕僚部ハ見解致シテ居リマス

269 IMT 357 218-1 0210 268 IMT 357 217 218 0209

尙大本營陸軍幕僚部ト致シマシテハ事變發生當時ヨリ長期ニ陥ル場  
合ヲ願慮シ過時持久ノ態勢ニ轉移シ得ル爲諸般ノ準備ヲ整ヘツツア  
リマスルカ前述我國防上ノ大局的見地、我國是ニ基ク日支國交ノ大  
道等以外ニ於テモ統帥ノ立場トシテ支那ニ對スル兵力行使ノ持久戰  
争的特質、列強ノ對支援助立帝國ノ對第三國軍備及建設途中ニ在ル  
滿洲國ノ現状等ニ稽ヘ又統帥部方面ヨリ見タル國際諸情勢、國內及  
國家總力ノ實情等ニ鑑ミマスレハ今次事變ハ其出兵目的ノ本旨達成  
ニ遺憾ナキ限り成ルヘク速ニ之ヲ終結ニ導クヘキモノト存セラルル  
ノテコサリマス加之最近ノ如キ氣運ニ投シ若我出兵目的ニ過スル辯  
和解決ノ成立ヲ見ルコトヲ得マスレハ管ニ帝國ノ爲ノミナラス日滿  
支三國ノ國力就中國防力ノ過度ノ減耗ヲ防キ防共ヲ容易ニシ帝國カ將

來ニ處スヘキ此等ノ充實整備ノ餘カヲ存セシメ東洋ノ平和ノ爲誠ニ  
喜フヘキ所テコサリマス從テ帝國トシテハ目下ノ時期ニ於テハ尙先  
ツ此目的ノ爲政戰兩略上ニ於ケル諸般ノ措置ヲ統合シテ善處スヘキ  
モノト考ヘ本案ヲ以テ此趣旨ニ合スルモノト解シ同意致シマシタ次  
第テコサリマス

軍令部總長宮殿下御口述覺

本方針ニ對シマシテハ異存アリマセヌ、又參謀總長ノ述ヘラレマシ  
タ所見ノ主旨ニハ同感テアリマス、尙本方針ニ基キ實行スヘキ條項  
ノ第三即

### 極 秘

本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲  
國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好  
關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

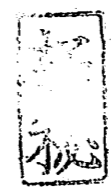
ハ支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ハ勿論和ヲ求ムル場合ニ  
於キマシテモ今後ノ國際情勢カ益々機微ナラムトシマスルニ鑑ミ特  
ニ重要テアルト認メマスカラ各部協力一致シテ極力之カ實現ニ邁進  
スルノ要アルモノト認メテ居リマス

IMT 357

221

0213

272



平  
信  
相  
府  
議  
長  
(スベリナシ)

中  
外  
議  
長  
承

御前會議ニ於ケル意見陳述ノ要旨

意見ヲ申上マス唯今當局大臣ノ説明ヲ聽キ尙ホ開會前疑問ノ存スル所ヲ當局大臣ニ質シ其ノ辨明ヲ聽キ本案ノ趣旨ヲ領承致シマシテ之ニ賛意ヲ表シマス又此ノ席ニ於テ參謀總長殿下位ニ軍令部總長殿下ノ御示シニナリマシタル點ニ付キマシテハ全ク意見ヲ同ク致シマス此ノ案ニ付テハ異議ハ御座リマセヌガ此ノ案ノ本旨ヲ遂行スルニ付深く考慮スヘキ點アリト信シマスルカ故ニ之ヲ述ヘテ責任アル當局者ノ注意ヲ喚起致シ度ク存シマス

支那事變起リテヨリ當局者力是迄克ク聖旨ヲ奉シテ其ノ任務ヲ遂行セラレタコトハ深く感謝スル所テ御座リマス今後ニ於キマシテハ是レ迄ヨリ一層事ノ困難ナルコト從テ責任ノ益々重キヲ加ヘルコトヲ

外  
務  
省

12-11 IMT 357 222 0214

滿感致シマス殊ニ善後ノ處理宜シキヲ制スルコトニ深ク留意スルコトヲ切望セサルヲ得マセヌ、善後ノ處理トシテハ上下心ヲ一ニシテ中正ナル途ヲ購シ國威ヲ宣揚スルト共ニ信ヲ中外ニ失ハス世界平和ノ基礎ヲ確立セネハナリマセヌ當局ノ立案ハ此ノ見地ニ立脚シテ居ルコトハ勿論デアルト考ヘマス乍去此ノ案ハ綱領ヲ示シタモノデ御座リマス實際ニ於テ其ノ目的ヲ達スルニハ尙細目ニ涉リテ事ヲ定ムルノ必要ガアリ又之ヲ遂行スルニ當リ幾多考慮ヲ要スルコトガアルト存シマス、要スルニ寬嚴宜シキヲ制スルコトガ大切テ御座リマス嚴ニ過タルコト寬ニ失スルコトハ何レモ再ヒ禍亂ヲ生スルノ因ヲ爲スモノト思ヒマス

本文ニ依レハ支那現中央政府カ和ヲ求メ來リ和議成ルトキハ永ク其

外  
務  
省

12-11 IMT 357 223 0215

ノ地位ヲ認めメネハナリマセヌ、現中央政府ヲ存置スル場合ニ於テ別紙(仰)ニ記載スルガ如ク内蒙ニ自治政府ヲ成立セシメ北支ニ特種ノ政治機構ヲ設立スルナラハ現在内蒙竝ニ北支ニ事實上存在スル政治機構ハ如何ナル運命ニ立至ルヘキヤ此點ニ付當局大臣ノ辨明ヲ求メタルニ現存スル機構ハ其ノ儘新設セラルヘキ自治政府又ハ政治機構トシテ認めルノ方針ナリトノ答ヲ得マシタ案スルニ内蒙竝ニ北支ニ現存スル機構ハ皆我方ノ指示ニ依リ其ノ組織ヲ見ルニ至リタルモノヲ御座リマス、若シ和議成リタル場合ニ於テ支那中央政府力之ヲ反逆視スルガ如キコトアラハ我ハ借ヲ中外ニ失スルニ至ルコトハ必然テ御座リマス素ヨリ事體ノ推移ニ因リ多少ノ變動ハ免ルヘカラサルコトデアリマセウカ大體ニ於テ當局大臣ノ答アルカ如キ趣旨ニ於テ處

外務省

は

1211

205 IMT 357

224

0216

理スルコトヲ以テ動かサル方針ト爲サネハナラヌコトト考ヘマス別紙(仰)ニ依レハ「北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設立シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルニアリ」ト記シテアリマス案スルニ此ノ機構ヲ設立スルノ目的ハ三國ノ經濟合作ノ實ヲ舉クルニ在ルモ其ノ機構ノ本體ハ一種ノ政治機構テアルコトハ明テ御座リマス而テ此ノ機構ハ内蒙ニ設立セラルヘキ自治政府ト異ナリ中央政府ノ統制下ニ置カルヘキモノデ御座リマス若シ此ノ機構カ一般地方政廳ノ如ク各般ノ事項ニ付キ支那中央政府ノ指揮ヲ受クヘキモノデアレバ到底所期ノ目的ヲ達スルコトハ出來マセン獨立國家ノ如ク條約ヲ締結スルコトヲ許ササルハ勿論ナルモ少クトモ所定ノ目的ノ爲メニハ中央

外務省

1211

206 IMT 357

225

0217



クコトハ敢モ大切ナルコトデアリマスガ古來爲政者ノ敢モ難ンジタル所テ御座リマス此點ニ付國務大臣ノ責任ノ輕カラサルコトヲ痛感致シマス

以上當局者ニ望ム所ノ大要ヲ述ヘマシテ意見ノ開陳ヲ終リマス

外務省

12.11

279 IMT 357

227

0219

政府ノ指揮ヲ待タスシテ有効ナル協定ヲ爲シ得ルノ權限ヲ有セシムルコトヲ勸カスヘカラサルノ條件トセネハナラヌコトト考ヘマス此ノ如クナラハ永ク支那ノ内政ヲ拘束スルノ結果トナルモコレハ東洋平和ノ爲メニ已ムヲ得サルコトトシテ忍ハネバナリマセヌ

本文ノ末項ニ「國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル」  
 俄國論ヲ指導ス。對外啓發ニ付亦同シトアリマス案スルニ大方針カ聖斷ニ依リ定マリタル以上ハ國民一人トシテ之ニ異議ヲ唱フルモノナキコトハ明テアリマス輔翼ノ國務大臣ハ國民全體ヲシテ徹底的ニ其ノ趣旨ヲ了解セシムルノ責任ヲ有スルコトハ勿論テ御座リマス若シ此ノ點ニ付萬一ノ失アルトキハ國民ノ間ニ疑惑ヲ生シ思ハサルノ結果ヲ生スルノ恐ナシト斷言スルコトハ出來マセヌ人心ヲ中正ニ導

外務省

12.11

279 IMT 357

226

0218

附記

一左記ハ前記要旨手交ニ當リ平沼樞密院議長ヨリ堀内次官ニ退ヘタル趣旨ナリ

御前會議議題ヲ受領シテヨリ會議マテノ間十分時間ノ餘裕ナカリシ爲メ御前會議ニ於テ自分ノ意見ヲ陳述スルニ當リテハ單ニ其ノ要旨ヲ「メモ」ニ留メ右ニ依リ意見ヲ申述ヘタル次第ニテ其ノ後前記要旨ヲ書上ケタルモノナルニ付キ本件書キ物ハ御前會議ニ於テ陳述セル所ト字句ニ於テ必スシモ一致シ居ラサル所アルノミナラス簡略ニシタル箇所アルモ趣旨ニ於テハ何等變ル所ナシ  
實ハ右以外ニモ意見申述ヘタキ點アリタルモ既ニ參謀總長及軍令部  
總務官殿下ノ進ヘラレタル所ト重複スル部分モアリタルニ付キソレ

外務省

は( )

12-11

IMT 357

228

0220

等ノ點ハ自分ニ於テ全然同感ナリト述フルニ止メ繰返シ自分ノ意見ヲ開陳スルコトハ之ヲ兼控ヘタリ

は( )

0221

12-11

IMT 357

229

外務省

820

極秘

御前會議ニ於テ大本營陸軍部トシテノ御報告

日支兩國ハ先ツ國防上大局ノ見地ニ基キマスルモ相重ニ衷心ヨリ道義的ノ親善提携ヲ必要トスル間柄デゴザリマシテ更ニ我國是ニ基ク

本日ノ議題タル支那事變處理根本方針ニ關シ大本營陸軍部ト致シマシテ内閣側ト意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ見解ニ就キ御報告申上ゲマス

日支兩國ハ先ツ國防上大局ノ見地ニ基キマスルモ相重ニ衷心ヨリ道義的ノ親善提携ヲ必要トスル間柄デゴザリマシテ更ニ我國是ニ基ク兩國國交ノ大道ニ照シマスルトキハ益々其必要ヲ感ズルノデゴザリマス

此見地ニ基キ内閣側ト種々意見ノ交換ヲ重ネマシタ結果只今外務大臣ヨリ御報告ニ及ビマシタ方針案ニ關シ幕僚部トシテハ次ノ趣旨見解ニ基キ意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ次第デゴザリマス  
今次支那事變ノ解決ヲ契機トスル日支兩國ノ國交恢復ニ方リマシテ

ハ從來ノ國交ニ一大轉換ヲ劃シマシテ東亞ニ於ケル兩國力過去一切ノ相剋ノ因果ヲ清算シ道義的基礎ノ上ニ衷心ヨリスル善隣友好互助共榮ノ實ヲ擧ゲ協同シテ東洋ノ平和ヲ確保シ其道義文化ノ擁護興隆ヲ圖リ延ヒテ世界ノ平和ニ貢獻スルコトヲ主眼トスベキモノデアリマシテ本件ハ今次事變出兵目的ノ骨子ヲ成スモノト信ゼラレマス例ヘバ「日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乗的基礎ノ上ニ再建シ」ト述ベラレ又「文化提携」等ノ語句ヲ用ヒラレマシタノハ此觀念ヲ意味スルモノト諒解致シテ居リマス  
次ニ媾和ノ條件ハ勝敗及犠牲ノ程度等ニ依リ自ラ差異アルハ避ケ難イ所ト存セラレマスカ前述ノ主眼ニ基キマスレハ此際ノ解決ニ當リマシテモ戰勝國ガ戰敗國ニ對シ過酷ナル條件ヲ強要スルガ如キ心境ハ毫末モ之ヲ有スベキニアラズトスル根本ノ觀念ニ立脚致シマシテ

0222

235

IMT 357

236

IMT 357

REEL No. A-0214

アジア歴史資料センター

公明正大ニシテ支那民衆ヲシテ努メテ帝國ノ媾和條件ニ鑑悟考察カ  
 シメス且公平ナル第三國ニ對シテモ我真意ノ存スル所ヲ認諒諒解セ  
 シムル爲努メテ寛大ナルヲ要スベキモノト思惟致シテ居リマス  
 唯々支那側ノ爲政者ノ媾和ノ内意及其不信行爲ニ關スル從來ノ經驗  
 等ニモ照シ駐兵權、非武裝地帯ノ設定等必要ナル保障ハ確實ニ之ヲ  
 把握致シマスルト共ニ約諾ノ實行ニ伴ヒ其之ヲ解除スルコトヲ願  
 シマシテ爾他ノ媾和條件ト確然タル區別ヲ設ケ以テ將來ニ於ケル事  
 端ノ再發ヲ防遏シ今次事變ノ尊キ犧牲ヲ意義アラシメマスルト共ニ  
 爾他ノ媾和條件ヲ努メテ寛大ナラシムルコトヲ容易ニシ且支那側ニ  
 對シ將來ニ希望ト光明トヲ與ヘ併セテ今後成ルヘク遠ニ而モ誠意ヲ  
 ル約諾ノ實行ヲ促進スル等ノ目的ヲ併セ達成スルヲ得算トスル次第  
 ト存シマス本案ハ基礎條件細目ノ内容力適正懇健ニ規定サレマス

IMT 357

245

237

0203

ナラバ正ニ此趣旨ニ合スルモノト見解致シテ居リマス  
 之ト併行シ事變解決後ノ國際情勢ノ變轉等ニ備フル爲國家總力統中  
 國防力ノ充實整備ヲ必須ノ措置ト致シマス即チ今次事變解決ノ效果  
 ナ真ニ根本的ノモノタラシメ得ルヤ否ヤハ寧ロ我方今後ニ於ケル此  
 等ノ措置如何ニ懸ルモノカ大デアルト存ジマス  
 事變ガ持久ノ態勢ニ移行致シマスル場合ニハ右ノ充實整備ハ一層促  
 進セラルベキモノデアリマシテ本案ハ此等ノ點ニ關シ十分ノ覺悟ヲ  
 表示セラレアルモノト幕僚部ハ見解致シテ居リマス  
 尙大本營陸軍幕僚部ト致シマシテハ事變發生當時ヨリ長期ニ陥ル場  
 合ヲ慮慮シ適時持久ノ態勢ニ轉移シ得ル爲諸般ノ準備ヲ整ヘツツア  
 リマスルガ前述我國防上ノ大局的見地、我國是ニ基ク日支國交ノ大  
 道等以外ニ於テモ統帥ノ立場トシテ支那ニ對スル兵力行使ノ持久戰

IMT 357

246

238

争的特質、列強ノ對支援助並帝國ノ對第三國軍備及建設途中ニ在ル  
滿洲國ノ現状等ニ稽ヘ又統帥部方面ヨリ見タル國際諸情勢、國內及  
國家總力ノ實情等ニ鑑ミマスレバ今次事變ハ其出兵目的ノ本旨達成  
ニ遺憾ナキ限り成ルベク速ニ之ヲ終結ニ導クベキモノト存ゼラルル  
ノデゴザリマス

加之最近ノ如キ氣運ニ投ジ若我出兵目的ニ適スル媾和解決ノ成立ヲ  
見ルコトヲ得マスレバ當ニ帝國ノ爲ノミナラズ日滿支三國ノ國力就  
中國防力ノ過度ノ消耗ヲ防ギ防共ヲ容易ニシ帝國ガ將來ニ慮スベキ  
此等ノ充實整備ノ餘力ヲ存セシメ東洋ノ平和ノ爲誠ニ喜ブベキ所デ  
ゴザリマス

從テ帝國トシテハ目下ノ時期ニ於テハ尙先ヅ此目的ノ爲政戰兩略上  
ニ於ケル諸般ノ措置ヲ統合シテ善處スベキモノト考ヘ本案ヲ以テ此

三

趣旨ニ合スルモノト解シ同意致シマシタ次第デゴザリマス

INT 357

248 240

INT 357

247 239

0224